

明治六年三月

新貨三錢



知新聞

第百二號



東京横山町三丁目

太田金右衛門

凡例

遠近の人民互に性情よく相通ト事理よくお達する新聞紙は如く
 故に西洋諸國苟も文明の名ある地は必ず新聞紙局を設
 ありて國內國外を論せざれば九百の事務を網羅し保せて奇事異聞瑣
 活常談を採用し以て日刊し月刊し年刊し傳布せしめ幾人か家
 喻戸曉小説は概ねバ國人甚だおれを便せしめ今爰に郵便
 此新報を刊行するも廣く遠近の子我我せ大ひに内おれ情を通し善
 古今の變を知りおいて世に裨益あるべし我我をさるる蓋し龍水の
 氷戎見て天下此寒を知りれば此小冊子を知るもの亦當今の子情の
 一斑と窺ふべし

郵便報知新聞第四十二號 明治六年第三月

○壬申第三百六號布告左ノ通被改小此旨更相達小事
 官員及び華士族ノ輩罪犯アリテ進退伺出小向ハ追テ
 御沙汰有之小迄差扣居ニ不及小旨御布令アリ
 ○日本國郵便蒸氣船會社ノ船舶品海發着トモ自今合
 炮相鼓レ小儀御聞届相成小旨大藏省ヨリ被相達小間
 此段為心得相達小事右府廳ヨリ區々戸長ハ御達アリ
 ○陸軍武官及び軍醫乘用馬稅御免除相成小旨山縣陸
 軍大輔殿ヨリ御達アリ

及ハ行開 第... 号

○群馬縣より報知

當管下群馬郡東明屋村龍門寺の隱居再生師ら一個乃
 奇僧ありて常に自ら云ふ佛を借家人別るりと或る僧
 ありて詰て汝の仏の飯を喰ひるがと何故と斯く言る
 ぞといひければ答るりふ我ら皇國の米を喰ひて三千
 年前釈迦の作りし穀を何とぞさて此老僧ら戊辰年中
 軍監大音某に從ひて功勞少くもず其他貧民を救助し
 荒蕪を開墾し種々の奇特ありし人あり且方今の時世
 を察し一月上旬農籍を退歸せり
 評曰世の人好んで仏に倣し身後の冥福を祈るを此

る皆凡庸の所為ありて容易に其惑は以て解き難し然
 るふおの老僧の如きは其身浮屠の門より却て
 仏氏を詈るに至るは奇なりて且つ異ありと云ふべ
 し愚民豈あるが為に開悟せざらんや

○横濱商人の内支那商民と國体と付爭論乃略

横濱に在る商人は愛國者流數輩ありて支那商人と國
 體の議論を及びしが横濱商人曰く爾が國は元來主君
 たり多く古より今に至るは姓を易るおと幾何ぞや
 支那人曰く汝が我國を指して主君定りしとりの
 ら何事ぞ嚮は汝が國に於ても大君政府を易へざるお

あつたや商人曰く汝が所謂大君を徳川氏と指さば
 ん彼の我が大君の番頭めて位將軍の職に居りその職
 務に奉ぜしを汝あり我が真の主君といへるハ開闢の
 始より今日に至る迄系統一君ありて姓を易する證
 なく支那人曰く汝が國近來洋人の体を擬して皆斷髮
 とするハ何ぞや萬古一君の國体と誇りるがと妄り
 風俗を易するハ心得ざる所ありと商人曰く我國古代
 素より結髮の俗あり故に近年断髮とするは俗を古
 復する處あり豈汝が國の如く鞭靴乃半坊子と醜態同
 ドからんやと互に悪口を極めつゝ殆ど擢鬪の勢に成

為せしが傍より和解する者ありと漸く引分れぬと

○中山道和田駅郵便取扱所より報知

同駅杖郷下和田ふ於て飼猫の死せるを此數多し去十
 一月より当一月迄は人家廿八戸斗り凡三十匹程に
 至り出れ何の故なるを知らず

○柏寄縣參事鳥居三ヨリ大藏省へ御届ノ寫

當縣管轄田高田藩々札引換ノ際ニ臨之不置兼テ御届
 ノ高二溢ニ計算難立存ニ引換差止田藩會計掛小笠原
 重親西收利道呼出ニ及ニ糾彈儀不取敢御届申ハ通ニ
 不然ル其顛末模糊トシテ判然ナラズ事情取風中右

二関係ノ旧藩役員大鳥武重儀ハ直ニ捕押ヘ夫ヨリ過
製造ノ端緒ヲ得取調ハ前以御届高ヨリ八十餘万
過勢ノ確證明瞭ハ二付其情ヲ知リ取扱ハ旧役員右小
笠原重親西牧利道外川鳥與三郎外二人共右武重ハ各
捕縛即今糾弾中ニハ尤旧藩札過製造高未ダ確乎何許
ト申儀ハ不相分ハ得共先以其根拠粗相分ハ二付不取
敢此段御届申上ハ尚委細ノ儀ハ追テ可申上ハ也

○讚州那珂郡丸龜米屋町常藏後家死よ二男中村定吉
るる者府下芝口二町目仁見つね後見小林宗吉方止宿
中何故ハ同人物置ヘ放火及一不司法省ふテ御札相成

焼燬一至今々料一依り準流十年且宗吉儀ハ届るく
定吉以止宿るせ一依り此度御叱り置れり

○滋賀縣より報知
管下學校の儀ハ官費以仰ガズ全ク民費を以て建築出
來せり此舉阿部市郎兵工梅村甚兵工四田小八郎の三
名尽力一依り右開校の盛大とるまじ又稻津村八木
山村の平民多職も右學校の盛舉以感ト同ト村内一
小学校と取建職業の暇一草鞋以當て學費一充る事と
始むと真一感ぜべき事ハ何とぞや

○新橋横濱間の瀛車定則の外午後第一時出發せる由

○日光山満願寺波之利大黒天の像今度浅草寺境内に
て開扉し付當十五日参着の出迎ひやて信者ら勿論其
他所々の藝妓等打集ひ美々しく群集乃催しありや

○石川縣より報知

當縣下の昨秋以来區學校設立の儀頻に民間へ説諭あ
り各區長ら云ふ及む農商富有の者ども迄
も一同奮發出金し縣官よりも多少の助力ありて大概
毎區に一校と設け凡五百円或は八百円づゝを資本し
て別に貸付の法を定免利息以て毎月乃學費ふ充
たりさて有志の者出金する處に金三千円米二百俵以下

らむ又書籍を差出したる者もあきあり當時生徒夜
學の輩を加へ平均一校二百二十名位あり就中松任町
といへる所なる従前乃穢多も混じりて入校し其他大聖
寺町などる士民打交りて同塾より實に僻遠北陰乃
地なる難得あやみて斯く人民の和熱せはる可喜の一
事なり

評曰諸縣漸次小学校の設ありやれども其成るは
速ふしと且盛んをなす石川縣及ぶを此より頃日
能州より歸りし人の嘯も旅寓中其の景況を見聞
くと大ひに容愁以慰めたりと聞く去邑バ其実を目

撃うたるよ至りてる特とくは此報知の如きふあらざるべ
一 豈いか縣官のと力りといいざるををけんや

○長野縣若下某より報知

群馬縣下上州沼田の富高某るもの癩病ありて信州
高井郡温泉あ赴まき育り人ら願ん城と云いへるをを治らすを乞
ひいが育り人の申ま勸め依より草津の湯治場と至まると
一月廿二日出立し雪ゆ中の嶮な岨と掛かりて俄と癩病を
起おりまれば願ん城を療り治す事を寄よせ此者城刺殺して所持
乃品々を奪と取り草津に至りて滞と留せて天網を遁れ難く
くして遂に長野縣に捕ま縛せ相成り

○海軍少輔川村純義海軍大丞兼主船頭赤松則良同少
将中幸田倉之助六等出仕高島眉山田原陶猗あ澳を國を博を覽る
會の儀に付て二月中彼地へ發し艦せり

○開拓使官負某氏外國人ノ暴行ヲ論ズル畧

當港第三大區一、小區船場丁ニ在留セル英國商人が
ツキストント云いへル者当二月十九日何事ノアリシヤ
怒を二乗じ其小使ニ雇まタル南部ハノ戸杉村喜六ト云いへ
ル十六才ノ少年ヲ呵責シ痛く改擊ヲ加へ之ヲ庫中ニ
囚へ置しニ遂に死ニ至りシ由某父杉村喜ハナルモノ
訴ふニ因り官廳ヨリ代辦領事ツルルトア氏ハ掛合ヲ遂に

医官等立合檢使ニ及ビ其事实取調最中ナリ此後所分
 如何ナルベキヤ未ダ詳ナルヲ知ル事能ハズト虽モ目
 前ノ事ヲ以テ論ズルニ若シコノ少年ニ惡行アラハ先
 之ヲ官ニ訴ヘ其判ヲ待ツベキニ直チニ手ヲ下シテ事
 ノ此ニ及ビシハ文明ノ西洋人ニ似合ハザル殘暴ノ行
 ヒト謂フベシ古ハ我國ニ外國人ヲ憎ムノ弊習アリ勤
 モスレハ暗殺等ハ暴行アリシニ今ハ彼我顛倒シテ是
 等ノ事アルハ如何ナル理ゾヤ普ク江湖ノ博識ニ問フ
 ○島根縣權令神山郡廉外二名より大藏省へ御届の畧
 當管下神川郡常樂寺村真宗西蓮坊幸道妻千代野儀姑

少み事当七十五才ありて八ヶ年前より兩豆瘰癧屈伸
 不自由ニ相成リ小処数年の間看護怠トモ諸事懇切ニ
 侍養いとし殊ニやみ事長病の餘り折節逆上しとし打
 擲等及び小儀毎々有之し得共慇懃ニ相宥し心体実
 ニ骨肉のいへども及び難き奇特の者ニ付為旌賞金一
 圓二十五錢被下方取計申し此段御届申上し

○副島外務卿ヨリ心院へ伺ノ畧
 先年東伏見宮英國へ御渡航ノ節同國公使書記官アス
 トニ儀御同伴御世話申上しニ付路費百ボンド余宮ヨ
 リ被差贈り外辭退致しニ付其終相成居此度同人御國

へ再渡ハニ付相應ノ品被遺度旨寺島全権ヨリ申越ハ
 処右金子鮫島公使ヨリ預ケ置ハバンク及破潰ハニ付
 受取方差支申ハ云々○右品物代金ハ宮内省ヨリ御取
 賄ノ積ヲ以御差贈相成可然旨大藏省ヨリ上達ノ由
 ○嚮又大分縣下黨民鎮定の儀御届書の内直入郡中十
 一十四小區の村々并十二小區の内熊地村其節穩便る
 る以て縣廳より賞詞あり又竹田町へは救助費賜へ
 り市人よりも米金若干と出ハ飢渴の者へ與へしとせ
 ○第卅九号又記載を服役満期ハ期持典ハ時の謬るり
 ○高知縣病院社長山本某より報知の大意

當縣貫属某の妻壬申止六歳體質健康トシて曾て病な
 一十九才トシて嫁ハ三才の時女子以産ト其子を令
 子健るり然るハ昨二月中より經血滞り六月に至り俄
 子腹滿を發シ苦ト不堪ハ難ク医藥
 と用ぬるといへとも寸効ハ依て



八月中病院ハ入り種々の治療を加
 へ終ハ彼の腔内トあハ囊状物ハ刺
 ころ子清水六升程流ト出ハ腹滿忽
 ち減レルとも胎内兒あるガ如ク故
 服藥を與へると果ト一兒と分

婉く病者の氣色平日不復たり、さき其子一頭、
八肢あり其形「ブルマン」國のマルチン氏産科、
式子舉ると髪、
髻多るを、
みよ、
と、
兩兒相對し抱き合ふ如く、
臍より以上合して一體となり、
頭の一方は半面、
の、
目鼻口備りて呼吸を、
く、
兩耳合一あり、
女子あり、
と陰具あり、
生色と十分間、
肩の插撃も止ま、
り、
誠に奇異の事共、
るり右奇兒寫真と畧畧しく、
と、
掲ぐ

○第四十号附録中里程表は濱田縣廣島通二百五十里
三十二町四十二間、
二百五十三里十二丁四十二間也
報知新聞第四十二號 終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣、
速く隔る國々、
其物情を、
互にお通せ、
且、
府下
小生ず、
細太る實各地、
相知り、
の、
と、
を、
依るを、
存、
あり、
法、
に、
存、
申、
善、
行、
の、
賞、
受、
を、
暴徒に捕縛、
機、
械、
産、
物、
の、
新、
著、
時、
禁、
錐、
織、
材、
漆、
器、
陶、
器、
米、
穀、
桑、
茶、
其、
他、
の、
諸、
品、
を、
製造
耕作の多寡、
豐凶、
震雷、
風雨、
水火の、
火、
難、
を、
暖、
氣、
候、
に、
依、
り、
少、
く、
多、
く、
を、
皆、
夫、
に、
著、
記、
し、
て、
聊、
文、
藝、
虛、
飾、
と、
加、
へ、
て、
時、
々、
代、
載、
て、
是、
と、
論、
じ、
若、
兒、
と、
其、
實、
私、
所、
不、
復、
り、
越、
し、
給、
は、
ん、
奉、
儀、
希、
く

一郵便報知新聞一冊、
價、
料、
銀、
二、
錢、
毎、
月、
五、
号、
宛、
出、
ぬ
當時、
發、
兌、
号、
ヨ、
リ、
先、
き、
廿、
冊、
分、
引、
受、
取、
向、
も、
一、
割、
引
同、
四、
十、
冊、
分、
一、
割、
半、
引
一、
ヶ、
年、
分、
引、
請、
の、
向、
も、
一、
割、
引

右之通割金お定金郵便報知新聞、
毎、
日、
發、
兌、
方、
と、
送、
り、
受、
取、
の、
向、
も、
一、
割、
引、
也

東京横山町三丁目

發兌人 太田金右衛門

